

KANAZAWA

UNESCO Creative City of Crafts 2013 – 2016 Monitoring Report

金沢 | ユネスコ クラフト創造都市
2013～2016 モニタリングレポート



目 次

1. 要 旨	1
2. 概 要	3
3. ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献.....	3
4. UCCN の目標を達成するために実施した地域レベルでの主な取組.....	4
5. UCCN の目標を達成するために都市間の協力を通じて実施した主な取組	7
6. 今後 4 年間の中長期のアクションプラン	10

1 要 旨

金沢市では、2009年にユネスコ創造都市として認定を受けて以来、官民の連携により「創造都市推進プログラム」を策定し、文化のビジネス化、人材の育成、世界への発信という観点から3つの将来像を掲げ、計画的に事業を推進してきた。市の重点戦略計画においても、創造都市の推進を重点施策に位置づけ、様々な取組を行っている。

創造都市・金沢が目指す将来像

1. 文化とビジネスをつなぐまち

本市の伝統工芸やその技術を生かした高付加価値の商品開発や、職人気質に根ざしたものづくり産業を振興し、海外にまで新たな販路を開拓するような、創意工夫に富んだ企業が数多く存在する都市を目指す。

2. 創造の担い手を育てるまち

ものづくりの後継者、文化芸術活動を担う若い世代等が、育ち、集い、競い、創造性を発揮する機会に恵まれるとともに、市民一人ひとりが、本市の伝統工芸や芸能に誇りと愛着を持ち、職人や作家たちを支え、日々の生活や文化的催し等への参加を通じて、質の高い生活を送れる都市を目指す。

3. 世界を引きつけるまち

ユネスコ創造都市ネットワークを通じた工芸の職人や作家、経済人等の連携を促すとともに、世界の「交流拠点都市」金沢として、21世紀の都市や自治体のあり方、地球規模の諸課題、世界平和の実現等についての国際的な会議が不断に開かれるような国内外から多くの人々が集う都市を目指す。

ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献

2009年のネットワーク認定以降、全ての会議に出席している。2015年には、ユネスコ創造都市ネットワーク会議をユネスコとともに主催した。また2014 成都会議から2016 エステルスンド会議までの2年間、ステアリング・グループの任にあり、会議のホストシティとして、またはクラフト＆フォークアート分野のコーディネーターとして、ユネスコとメンバー都市間の調整を行った。

UCCN の目標達成のために実施した地域レベルでの主な取組

金沢クラフトビジネス創造機構運営、dining gallery 銀座の金沢、おしゃれメッセ、加賀友禅・金箔箔技術振興研究所運営、金沢の技と芸の人づくり奨励金、金沢美術工芸大学による国際交流研究事業、金沢工芸子ども塾、金沢ユネスコスクール推進事業、金沢版クラフト・ツーリズム事業、金沢・世界工芸トリエンナーレ／世界工芸コンペティション、外部研究機関等との共同研究事業

UCCN の目標を達成するために都市間の協力を通じて実施した主な取組

若手工芸家海外研修支援事業（クリエイティブ・ワルツ）
世界創造都市フォーラム／ワークショップの開催
ユネスコ創造都市ネットワーク 市長ラウンドテーブル
「ユネスコ創造都市・金沢」国際プロモーション事業

今後4年間の中長期のアクションプラン

文化創生新戦略 2020 の推進

今後は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年を目途に、本市が文化芸術の交流・発信拠点となり、文化都市としての世界的な存在感を確立するため、その実現に向けた指針である「文化創生新戦略 2020」を策定し、世界に文化都市金沢を認知させ、文化の力によって本市の活性化を図っていくこととしている。

基本方針

- I 伝統工芸の充実
- II 現代アートの発信強化
- III 文化芸術を担う人材の育成
- IV 文化芸術の世界発信

プロセスと目標

2017

第3回 金沢・世界工芸トリエンナーレ開催

2018

東アジア文化都市事業 2018 の開催

2019

東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの実施

2020

国際工芸サミット 2020 開催

2020 年を目途に 文化芸術により金沢が世界的な存在感を確立

1 ネットワークの目標達成を目的とした国内レベルでの取組

- 金沢卯辰山工芸工房のリニューアル
- KOGEI かなざわ
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム

2 ネットワークの目標達成を目的とした国外レベルの取組

- クロッシング・アート・レジデンシー
- 東アジア文化都市 2018
- 国際工芸サミット 2020

2 概 要

- ・都 市 名： 金沢市
- ・国 名： 日 本
- ・創 造 分 野： クラフト & フォークアート
- ・認 定 年 月 日： 2009 年 6 月 8 日
- ・報 告 書 提 出 日： 2016 年 11 月 30 日
- ・報 告 書 の 責 任 者： 金沢市長 金沢創造都市推進委員会会長 山野之義
- ・前 回 報 告 書 提 出 日： 2013 年 6 月
- ・連 絡 担 当 者： 金沢創造都市推進委員会 事務局長 久保雅寛

3 ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献

- ・2013-16 ユネスコ創造都市ネットワーク会議出席実績： 4 回（通算 8 回）

2013 年 第 7 回 ボローニャ会議

2014 年 第 8 回 成都会議

2015 年 第 9 回 金沢会議

2016 年 第 10 回 エステルスンド会議

※2009 年 リヨン会議以降 8 回の会議に全て出席

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク会議の主催実績：

2015 年 金沢会議 2015 年 5 月 25 日～28 日



- ・分野の代表者が参加した会議の主催実績：

2014 世界創造都市フォーラム in 金沢 2014 年 1 月 24 日

2015 創造都市ネットワーク日本総会・フォーラム 2015 年 2 月 26 日

2015 創造都市ネットワーク日本 世界創造都市シンポジウム 2015 年 5 月 25 日

- ・ネットワークメンバーが多数参加した創造都市に関する国際会議の主催：

2015 市長ラウンドテーブル 2015 年 5 月 26 日

2015 石川-金沢生物文化多様性圏国際シンポジウム 2015 年 5 月 28 日

- ・ステアリング・グループ在任期間： 2014 年 9 月～2016 年 9 月 2 年間

2014～2015 会議開催市

2015～2016 クラフト & フォークアート分野 副コーディネーター

- ・申請書の評価への参加： 2015 年 申請書評価にてコーディネートを実施

4 UCCN の目標を達成するために実施した地域レベルでの主な取組

ユネスコクラフト創造都市として、金沢市は、文化のビジネス化、人材の育成、世界への発信というそれぞれの観点から3つの将来像を掲げて事業を展開している。

1. 文化とビジネスをつなぐために

本市の伝統工芸やその技術を生かした高付加価値の商品開発や、職人気質に根ざしたものづくり産業を振興し、海外にまで新たな販路を開拓するような、創意工夫に富んだ企業が数多く存在する都市を目指している。

金沢クラフトビジネス創造機構

クラフトの販路拡大や情報発信などの機能を強化するため、金沢クラフトビジネス創造機構を 2011 年 4 月に設立し、「生活工芸／金沢」のブランディングや販路開拓セミナーの開催、ビジネス化支援、情報の集積・発信、テストマーケティング、インキュベーション支援など多様な事業を展開している。

dining gallery 銀座の金沢

伝統工芸をはじめとする本市の工芸「金沢クラフト」の魅力を総合的に発信する拠点施設として、情報と人の集積地である東京に、2014 年 10 月、「dining gallery 銀座の金沢」を開設した。

住 所 東京都中央区銀座 1-8-19 キラリトギンザ 6F

サイト <http://www.ginzanokanazawa.jp>



おしゃれメッセ

金沢の繊維製品や伝統工芸品を内外に発信し、クラフトのビジネス化を推進するため、創造都市金沢を代表する見本市として、2006 年～2015 年までの 10 年間、毎年秋に開催し、工芸品の販売、展示会、伝統工芸をモチーフにしたプロジェクションマッピング等様々な催しを展開した。



加賀友禅・金箔技術振興研究所

現代の生活様式に伝統工芸を活用するための専門研究機関として、加賀友禅技術振興研究所を 2009 年 7 月に、金箔技術振興研究所を 2010 年 7 月に設立し、技術支援、新製品開発、販路拡大などに向けた課題研究を行っている。

2. 創造の担い手を育てるために

将来のものづくりや文化芸術活動を担う若い世代が、育ち、集い、競い、創造性を発揮する機会に恵まれるとともに、市民一人ひとりが伝統工芸や芸能に誇りと愛着を持ち、職人や作家たちを支え、質の高い生活を送ることができる都市を目指している。

金沢の技と芸の人づくり奨励金

金沢卯辰山工芸工房や産地組合における高度な工芸技能の習得を目指す技術研修者の創作活動を支援するため、技と芸の人づくり基金による奨励金を支給している。

金沢美術工芸大学による国際交流研究

金沢美術工芸大学が交流協定を締結している海外の美術大学と学生及び教員の相互派遣を行ったほか、国際的な芸術家・研究者を金沢に招き、学生や市民を対象とした講演会等を開催している。

金沢工芸子ども塾

将来の工芸作家の発掘と育成に向けて、子どもの頃からものづくりに接して、工芸の素質を磨くために、2年間で1期として、デザイン・金工・染織・陶磁の各分野において実習を行う金沢工芸子ども塾を実施している。



金沢ユネスコスクール推進

持続可能な社会の担い手を育成するために、市内小中学校のユネスコスクールへの加盟を促進し、金沢の伝統文化、環境、国際理解などに関する学習の充実や国内外の加盟校との交流推進を図っている。
(ユネスコスクール設置数 50 (小学校 43、中学校 7))

3. 世界を引きつけるために

ユネスコ創造都市ネットワークを通じた工芸の職人や作家、経済人等の連携を促すとともに、世界の「交流拠点都市」金沢として、国内外から多くの人々が集う都市を目指している。

金沢版クラフト・ツーリズム

伝統文化体験（工芸、芸能、食など）を通じて国内外に「手仕事のまち・金沢」を発信するため、伝統工芸の工房見学や制作体験と名所・旧跡の訪問を組み合わせた金沢ならではの旅を「金沢クラフト・ツーリズム」と名づけ、発信や実施の支援を行っている。



金沢・世界工芸トリエンナーレ／世界工芸コンペティションの開催

金沢の伝統工芸を国内外に発信し、未来へと継承していくため、2010年から金沢・世界工芸トリエンナーレを開催している。2017年に開催される第3回では、時代とともに変化し広がる工芸芸術を世界的視野で捉え、表現力豊かな新しい工芸芸術作品を紹介するために、世界工芸コンペティションを実施し、ユネスコ創造都市ネットワークを通じた募集も行った。

第2回 金沢・世界工芸トリエンナーレ 2013年8月3日～8月29日

テーマ 工芸におけるリージョナルなもの
サンタフェからアーティストが出展

第3回 金沢・世界工芸トリエンナーレ 2017年1月21日～2月11日

コンペティションにトリノ、ゴールウェイ、上海、景德鎮、ポローニャ、ベルリン、ソウル、シンガポール、ダブリン、テルアビブ、ローマ、プラハ、ナッソーから応募



外部研究機関等との共同研究事業

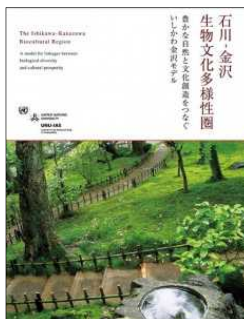
クラフト創造都市・金沢の持続可能な発展や21世紀における創造都市の意義・役割等について、学術的な視点から国内外へと発信するため、外部研究機関等との共同研究を行い、国際会議、学会等での発表につなげている。

2015年5月には、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）との共催により、国際シンポジウムを開催した。

また、2016年9月にスウェーデンのエステルスンドで開催された科学会議（VEC）に、金沢市代表が参加し、OUIKとともに分科会のセッションを主催した。

生物文化多様性国際シンポジウム 2015年5月28日 金沢市

石川-金沢 生物文化多様性圏 豊かな自然と文化をつなぐ いしかわ金沢モデル



「持続可能な地域開発のための創造性の評価と価値」会議

2016年9月11日～13日 スウェーデン エステルスンド市

分科会「石川-金沢生物文化多様性圏－分野横断的な地域のプラットフォームと学術ネットワークが育む創造性」 2016年9月12日

5 UCCN の目標を達成するために都市間の協力を通じて実施した主な取組

若手工芸家海外研修支援事業（クリエイティブ・ワルツ）

異文化との交流から新しい刺激を受けるとともに、国際的な人脈や視野を得ることを目的として、2010 から 2014 年まで、「クリエイティブ・ワルツ」プログラムとして、若手工芸家を海外の創造都市に派遣した。実施にあたっては受入れ先となる創造都市に協力を依頼し、若手工芸家等 20 人を 10 都市に派遣した。2016 年には、景德鎮市へ若手陶芸家を派遣し、レジデンス施設で制作を行った。

派遣者 金沢市工芸協会や金沢卯辰山工芸工房の若手工芸家、金沢美術工芸大学の学生

派遣都市 2013 ボローニャ、サンタフェ、ブラッドフォード、ゲント、ソウル、サンティエヌ

2014 全州、ソウル、利川、サンタフェ、ボローニャ、ゲント、サンティエヌ

2016 景德鎮



世界創造都市フォーラム／ワークショップの開催

クラフト創造都市・金沢を世界へ発信し、本市の文化・産業をより一層活性化させるため、フォーラムやワークショップの開催など、ユネスコ創造都市との幅広い交流事業を展開している。

世界創造都市フォーラム in 金沢

開催日 2014 年 1 月 24 日

テーマ 創造都市から始まる新たな交流

招聘者 ブラッドフォード マリー・ドーソン氏（コミュニティー放送ディレクター）
サンティエヌ ジョージアンヌ・フラン氏（シティ・デュ・デザイン国際部長兼
市工芸高等学校国際部長／市デザイン都市コーディネーター）
サンタフェ ロバート・ランバート氏（市芸術協会コミュニティーギャラリー館長）

創造都市ネットワーク日本総会・講演会

開催日 2015 年 2 月 26 日

テーマ ゲント：創造性と音楽を遙かに超えたビジョン

招聘者 ゲント マールテン・ウェイレル氏（ゲント王立音楽院 音楽学部長）

創造都市ネットワーク日本・世界創造都市シンポジウム

開催日 2015 年 5 月 25 日

テーマ 文化芸術を生かした都市の再興と社会課題の解決

招聘者 ボローニャ マッテオ・レポーレ副市長
モンリオール マリー＝ジョゼ・ラクロワ氏
候補都市（山形市長、新潟市長、篠山市長）



ユネスコ創造都市ネットワーク 市長ラウンドテーブル

ユネスコ創造都市ネットワークが2004年の創設以来10年を経過し、またユネスコ創設70周年の節目にあたることから、ネットワークの新たな10年のビジョンについて意見交換することを目的に、金沢市が開催を提案した。

会議では、17人の市長・副市長と、ユネスコ代表者がモデレーターとして参加し、4つのテーマで活発な意見交換を行った。金沢市長からは、今後の創造都市交流のあり方として、i エリア内の交流強化とii 異分野での連携促進という2つの方向性を提唱した。

開催日 2015年5月26日

参加者 市長10人（利川、ナッソー、ファブリアーノ、アンギャンレバン、浜松、光州、プカロンガン、ダニーデン、鶴岡、金沢）・副市長7人（サンタフェ、名古屋、エステルスンド、神戸、全州、順徳、ボローニャ）

モデレーター ユネスコ代表者

テーマ

- i ユネスコ創造都市の認定による影響
- ii 革新的なパートナーシップの構築
- iii 創造性と地域開発
- iv 前進：ユネスコ創造都市ネットワークの未来



「ユネスコ創造都市・金沢」国際プロモーション事業

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「ユネスコ創造都市」の国際的なプレゼンスを高めるため、ユネスコ本部において、日本のユネスコ創造都市合同による日本文化プロモーションを展開した。本市は、人間国宝の作を含む本物の工芸作品を展示し、金沢の工芸の多彩さ、精緻さ、価値を示したほか、金沢芸妓による伝統芸能披露や、シンポジウムでの発表を行った。

テーマ 日本へのクリエイティブな旅

会期 2016年10月17日～21日

会場 パリ・ユネスコ本部 1階 ホール・セギュールほか

内容 創造都市の取組展示、シンポジウム、オープニングレセプション

出展都市 神戸市、札幌市、浜松市、鶴岡市、山形市、アンギャンレバン市

入場者数 3,300人 イリーナ・ボコヴァ事務局長、シマター総会議長ほか



その他の取組

サブネットワーク・ミーティングへの参加

分野内の都市との関係構築、連携強化を目的としてサブネットワーク・ミーティングに参加

2013 ポローニャ会議、サンタフェ・サブネットワーク・ミーティング

2014 ファブリアーノ・フォーラム、成都会議サブネットワーク・ミーティング

2015 金沢会議創造分野ワークショップ

2016 エステルスンド会議創造分野ワークショップ

ユネスコ創造都市北京サミットへの参加

北京市の呼びかけに応じ、第1回ユネスコ創造都市北京サミットに副市長が参加

2013年10月22日 北京市

利川セラミックフェスティバル2014 ワークショップへの招待参加

クリエイティブ・ワルツプログラムにより、2011、12年に派遣した研修生2名が、利川市からの招待により、利川セラミックフェスティバルでワークショップを行った。

シンセンデザインアワード2013、2015への参加

深圳市からの呼びかけに応じ、ユネスコ創造都市の若手アーティストを対象にシンセン市が開催したデザインアワードに、2013、2015年、市内の若手工芸家9組を推薦した。

創造都市に関する視察の受入れや認定を目指す都市への支援

創造都市・金沢に関心を寄せる海外の都市からの視察を受入れ、創造都市ネットワークを広めるためや認定を目指す都市への支援のため、事例の紹介を行った。

2014 9月10日 タイ王国チェンマイ市・チェンマイ県

10月27日 韓国浦項市

2015 1月30日 韓国統営市

3月10日 韓国光州広域市

5月26日 韓国ソウルデザイン財団、韓国光州広域市長

7月9日 韓国浦項市シンクタンク

11月13日 韓国利川市・京畿道東部圏協議

12月17日 成都食文化都市促進協議会

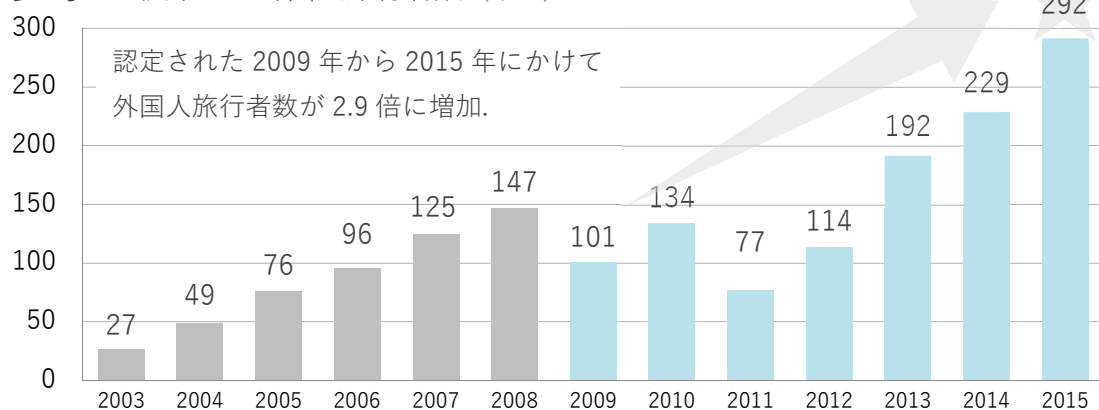
2016 2月26日 日本ユネスコ国内委員会フェローシップ

(中国、韓国、タイ、マレーシア、ドイツユネスコ国内委員会)

7月22日 トルコキュタフヤ市

8月3日 韓国国立全南大学

参 考 金沢市への外国人旅行者数（千人）



※主要観光地である兼六園の入園者数から

6 今後4年間の中長期のためのアクションプラン

文化創生新戦略 2020 の推進

今後は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年を目途に、本市が文化芸術の交流・発信拠点となり、文化都市としての世界的な存在感を確立するため、その実現に向けた指針である「文化創生新戦略 2020」を策定し、世界に文化都市金沢を認知させ、文化の力によって本市の活性化を図っていく。

基本方針

I

伝統工芸の充実

藩政時代から今に至るまで人々の暮らしに息づいている金沢の伝統工芸の発展継承を図ることを、金沢卯辰山工芸工房を位置づけ、担い手支援のための環境整備、金沢クラフトのブランド力向上、発表機会の充実・販路の拡大に取り組む。

II

現代アートの発信強化

現代アートという新たな金沢の資産を活用してさらに世界に注目されるまちを目指すため、国外美術館との連携・交流強化、金沢 21 世紀美術館の魅力向上、現代アートの情報の集積・発信に取り組む。

III

文化芸術を担う人材の育成

今後さらに金沢の文化の継承発展及び創造を進めていくため、「今」を担う人づくりのための支援、「未来」を担う人づくりのための支援、知と創造の拠点整備に取り組む。

IV

文化芸術の世界発信

文化を通じた世界的なネットワークの構築を図ることにより、文化芸術の交流・発信拠点を目指すため、金沢の文化の魅力発信、実践的な交流・連携の推進、MICE の積極的な推進に取り組む。

プロセスと目標

2017

第3回 金沢・世界工芸トリエンナーレ開催

2018

東アジア文化都市事業 2018 の開催

2019

東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの実施

2020

国際工芸サミット 2020 開催

2020 年を目途に 文化芸術により金沢が世界的な存在感を確立

6.1 ネットワークの目標達成を目的とした国内レベルでの取組、プログラム、プロジェクト

金沢卯辰山工芸工房のリニューアル

工芸作家のインキュベーション施設である金沢卯辰山工芸工房を、創設 30 周年を機にリニューアルしてさらなる活性化を図るとともに、工芸文化研究所を開設する。



KOGEI かなざわ

2006～2015 年に開催した「おしゃれメッセ」の 10 年間の取組を生かし、工芸のビジネス化を一層促進するため、工芸作品の展示や販売会、ギャラリーによる特別企画などで構成する「かなざわ工芸フェスタ」と、市民参加のイベントを展開する「金沢 21 世紀工芸祭」を開催する。



2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、オリンピック憲章に基づき、スポーツの祭典としてだけでなく文化の祭典として成功させるため、国とタイアップし、行政と民間が連携して、本市固有の魅力を生かした文化プログラムを実施する。

本市の固有の魅力である工芸を核として、食文化、音楽、メディアアート、デザイン等他の分野と横断的なイベントを行い、国内外に発信するとともに、一層の文化振興につなげる。

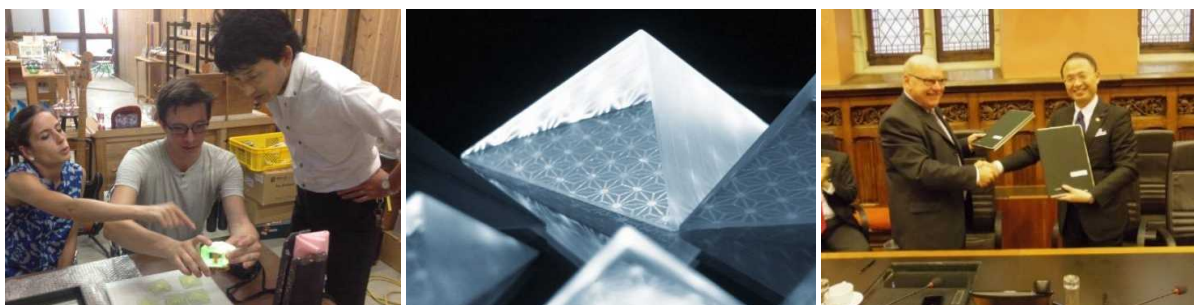


6.2 ネットワークの目標達成を目的とした国外レベルでの取組、プログラム、プロジェクト

クロッシング・アート・レジデンシー

工芸の枠組みを超え、異なる分野とのコラボレーションによってイノベーションの可能性を広げるため、メディアアート分野のコーディネート都市であるアンギャンレバン市と連携して、両市のクリエイターが、互いの都市でのレジデンスを通じ、作品を共同制作する。

このほか、音楽分野のコーディネート都市であるゲント市とも分野を超えた先駆的な取組を行うことを合意するなど、ネットワークを活用した都市間交流によって、創造性を磨き高めていく。



東アジア文化都市 2018

日本・中国・韓国の文化大臣合意に基づき、各国から各1都市を選定して実施する文化交流事業「東アジア文化都市 2018」を、金沢市で開催する。金沢市の文化・産業の大きな個性である「KOGEI」からイノベーションをおこすとともに、アートや芸能、音楽を通じ、東アジアとの交流を促進し、未来の金沢の文化の担い手を育成し、金沢の文化芸術の世界発信につなげていく。

テーマ 金沢からはじまる未来文化の創造 KOGEI、アート、芸能、音楽の新たな可能性

事業の狙い 伝統文化から現代アートまで、金沢の多様な文化を介し、東アジアとの新たな交流を生み出すとともに、工芸をはじめ、それぞれの文化と新たな文化との出会いによりイノベーションを創出する。



国際工芸サミット 2020 の開催

「国際工芸サミット」は、文化庁と工芸の一大産地である北陸三県が協力し、工芸の魅力を世界に発信することを目的として、国内外の工芸作品を集めた展示、シンポジウムや、食文化など工芸と関連する他分野を巻き込み、日本文化の魅力を伝えるイベントである。2017 富山、2018-19 福井に続き開催が予定されている 2020 石川において、金沢での開催を誘致し、ユネスコクラフト創造都市として、工芸を通じた国内外の創造都市との文化交流・発信を行う。

6.3 提案されたアクションプランのための予算見積額（人材、施設など）

年間予算

項 目	2016 年度予算	主な事業
クラフト創造都市推進費	163,634 千円	dining gallery 銀座の金沢運営
伝統産業振興費	150,088 千円	金沢の技と芸の人づくり奨励金
創造都市推進費	16,092 千円	ユネスコ創造都市交流事業
文化の人づくり推進費	24,000 千円	金沢工芸子ども塾
卯辰山工芸工房技術研修者奨励金	36,400 千円	
職人技術向上費	56,354 千円	金沢職人大学校運営
文化施設運営費	413,083 千円	市民芸術村、卯辰山工芸工房等
金沢 21 世紀美術館運営費	783,272 千円	
金沢美術工芸大学運営費交付金	890,617 千円	

6.4 コミュニケーションと認識についてのプラン

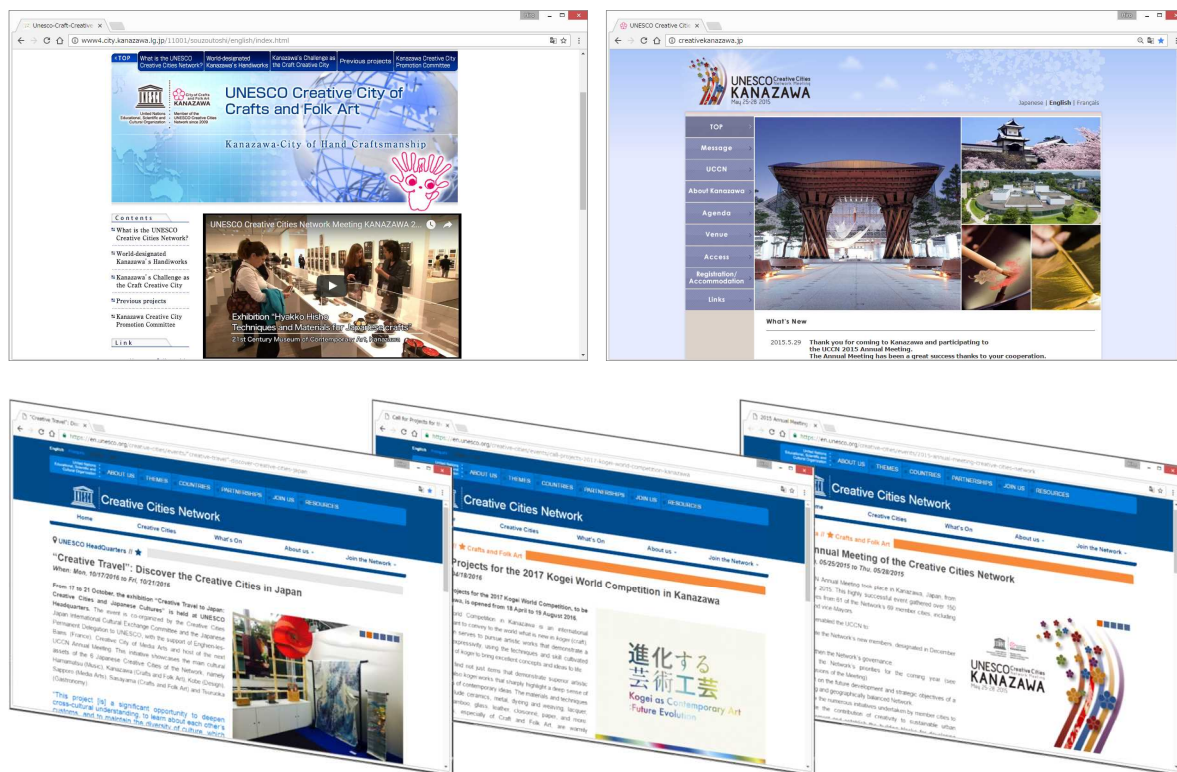
ユネスコクラフト創造都市金沢のウェブサイトを通じ、国内外に積極的に情報発信を行っている。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11001/souzoutoshi/english/>

ユネスコ創造都市ネットワーク会議金沢 2015 においては日英仏 3 カ国語での展開を行った。

<http://creativekanazawa.jp/>

ユネスコ創造都市ネットワークのウェブサイトにも積極的にニュースを掲載し、活用しているほか、ステアリンググループや関係都市と、Skype を用いたビデオ会議を行っている。



金沢 | ユネスコ クラフト創造都市
2013～2016 モニタリングレポート
2016 年 11 月 30 日
電話：076-220-2031 FAX：076-264-2535

